

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第5区分
 【発行日】平成21年3月5日(2009.3.5)

【公表番号】特表2008-530378(P2008-530378A)
 【公表日】平成20年8月7日(2008.8.7)
 【年通号数】公開・登録公報2008-031
 【出願番号】特願2007-553149(P2007-553149)
 【国際特許分類】

D 0 3 D 15/12 (2006.01)
 A 4 7 C 27/12 (2006.01)
 A 4 7 G 9/02 (2006.01)
 D 0 3 D 15/00 (2006.01)
 D 0 6 C 7/00 (2006.01)
 D 0 4 H 1/42 (2006.01)
 D 0 1 F 2/10 (2006.01)

【F I】

D 0 3 D 15/12 Z
 A 4 7 C 27/12 K
 A 4 7 G 9/02 A
 D 0 3 D 15/00 D
 D 0 3 D 15/00 E
 D 0 6 C 7/00
 D 0 4 H 1/42 W
 D 0 1 F 2/10

【手続補正書】

【提出日】平成21年1月16日(2009.1.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 空气中20 /分の速度で700 に加熱されたときに、その重量の少なくとも10パーセントを保持するセルロース含有繊維と、

(b) ウールと

を含んでなり、(b)が、(a)および(b)を基準として15~70重量%の範囲で存在する耐炎性布。

【請求項2】

(a) 耐炎性布を追加の布と直接または接着剤を介して接触させることと、

(b) 両方の布を接合することと、

を含んでなる、耐炎性布を追加の布と接合する方法であって、耐炎性布が請求項1に記載の布である方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 0 】

サンプルD（ウールを含有するがアラミドを含有しない）およびサンプルH（ウールおよびアラミドの両方を含有する）は、50%の圧縮を有した。

次に、本発明の好ましい態様を示す。

1. (a) 空気中 2 0 / 分の速度で 7 0 0 に加熱されたときに、その重量の少なくとも 1 0 パーセントを保持するセルロース含有繊維と、
(b) ウールと
を含んでなり、(b) が、(a) および (b) を基準として 1 5 ~ 7 0 重量 % の範囲で存在する耐炎性布。
2. ウールが、セルロース繊維およびウールを基準として 1 5 ~ 7 0 重量 % の範囲で存在する上記 1 に記載の布。
3. 1 2 5 ~ 5 0 0 の範囲の熱的性能温度を有する上記 1 に記載の布。
4. 2 0 0 ~ 4 0 0 の範囲の熱的性能温度を有する上記 3 に記載の布。
5. 修正 A S T M D 6 5 7 1 - 0 1 に従って 2 4 時間で測定される圧縮が少なくとも 4 0 % である上記 1 に記載の布。
6. セルロース含有繊維がケイ酸を含有する上記 1 に記載の布。
7. 0 . 3 ~ 6 . 0 ポンド / 立方フィート (5 ~ 9 6 キログラム / 立方メートル) の範囲の密度を有する上記 1 に記載の布。
8. 3 ~ 1 8 オンス / 平方ヤード (1 0 2 ~ 6 1 0 グラム / 平方ヤード) の範囲の坪量を有する上記 1 に記載の布。
9. 4 ~ 1 2 オンス / 平方ヤード (1 3 6 ~ 4 0 7 グラム / 平方ヤード) の範囲の坪量を有する上記 9 に記載の布。
10. カリフォルニア州試験基準 T B 6 0 3 に従ってマットレス内で試験したときに、3 0 分の試験時間の間の放熱の最高速度が 2 0 0 k w 未満であり、試験開始の 1 0 分以内の放熱の総量が 2 0 M J 未満であるという結果になる上記 1 に記載の布。
11. 耐熱性繊維をさらに含有する上記 1 に記載の布。
12. 耐熱性繊維が、アラミド、ポリベンゾアゾール、ポリベンゾイミダゾールまたはポリイミドである上記 1 1 に記載の布。
13. アラミドがポリ (パラフェニレンテレフタルアミド) である上記 1 2 に記載の布。
14. 製品の芯材として存在する上記 1 に記載の布。
15. マットレス内に存在する上記 1 に記載の布。
16. 家具内に存在する上記 1 に記載の布。
17. (a) 耐炎性布を追加の布と直接または接着剤を介して接触させることと、
(b) 両方の布を接合することと、
を含んでなる、耐炎性布を追加の布と接合する方法であって、耐炎性布が上記 1 に記載の布である方法。
18. 接合が縫合によるものである上記 1 7 に記載の方法。